

芦生研究林におけるクマ剥ぎ防除の取り組みの報告

芦生研究林 細見純嗣

1. はじめに

芦生研究林の人工林において、ツキノワグマ（以下、クマ）による樹皮の剥皮被害（以下、クマ剥ぎ）が問題となっている。そこで、今回 1999 年に設定したクマ剥ぎ調査地の現状を調査したことを報告する。

2. 調査地と調査方法

調査地は、芦生研究林第 5 林班内にある 1967 年植栽地である（図 1）。1999 年に 20m×20m のプロットを 27 個設定し、毎木調査を行った。そして、27 個のプロットをポリエチレンテープ（テープ幅 50mm、以下、ポリエチレン）、ビニールテープ（テープ幅 38mm、以下、ビニール）、標識テープ（テープ幅 30mm、材質ビニール、以下、標識）、ポリプロピレンロープ（ロープ幅 10mm、以下、PP）、スプリング、タイヤチューブ（以下、タイヤ）、竹、分解素材ネット（以下、分解素材）の 8 種類の材料を使用したクマ剥ぎ防除処理およびクマ剥ぎ防除を行わない無処理と合わせ 9 種類に分け、各種 3 個ずつプロットを設定した。調査地の略図と概要を図 2 に示した。ポリエチレンによる防除では、木の根元付近から胸の高さ付近までをらせん状に巻きつけた。ビニール、標識、PP、スプリング、タイヤによる防除は、木の根元付近から胸の高さ付近までの間に各種材料を 4 本巻きつけた。竹による防除は、竹をわって幅 3cm、長さ 1m ほどの杭状にしたものを木の根元に 3 本沿わせ、ビニールテープで竹をとめた。分解素材ネットによる防除は、ネットを木の根元に巻きつけた。今回、クマ剥ぎ防除を行った木の現状を 2012 年秋に調査した。

第5林班 図

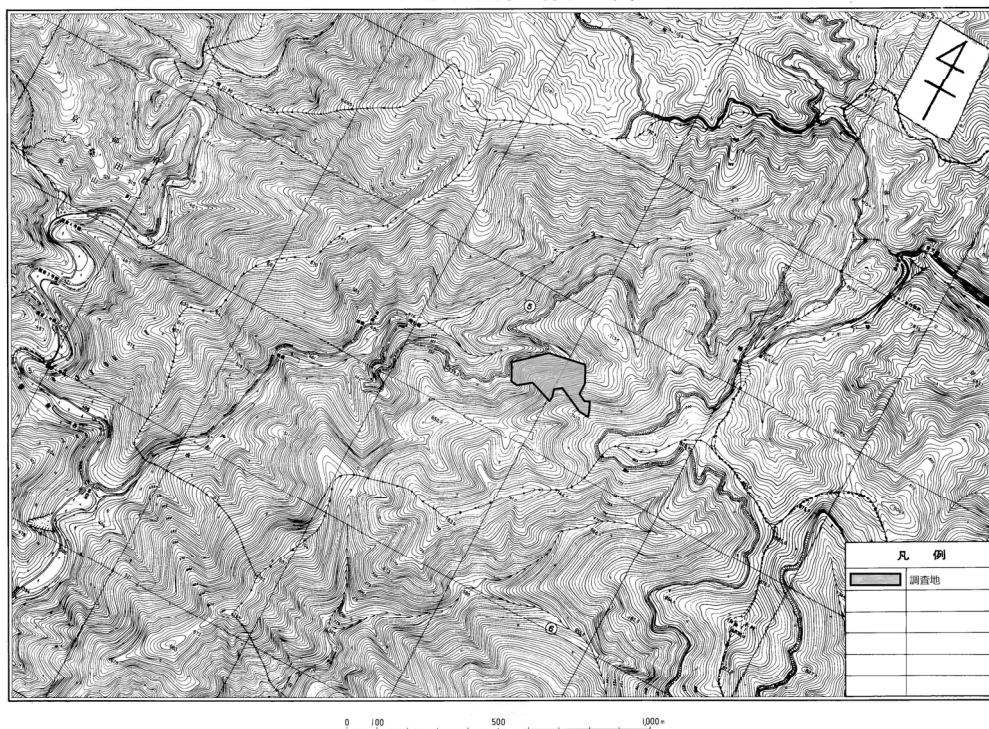


図 1 調査地

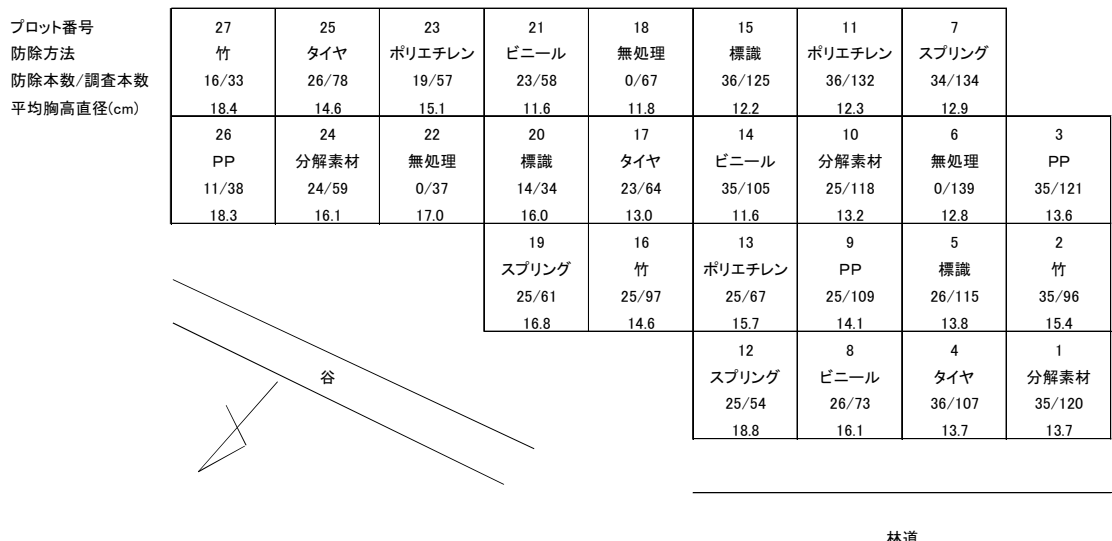


図2 調査地の略図と概要

3. 結果

1999年から2012年までにクマ剥ぎ防除を行った木が被害を受けた本数をクマ剥ぎ防除の方法ごとに示したものが表1である。防除を行ってから10年以上経過しているのでの防除も材質の劣化により、防除効果は落ちていると考えられるが、タイヤチューブとビニールテープの防除後にクマ剥ぎ被害を受けた本数が多かった。この二つの防除は設定後に行われた2000、2001、2002、2003年の調査でもチューブが切れた、テープが切れたとの結果が得られていることから防除後すぐに、効果が落ちていたと推察される。一方、ポリプロピレンロープと竹による防除がクマ剥ぎ被害を受けた本数が少なかった。防除設定後、3年か5年をめどにこのような報告が出せるとよかったが、残念ながらできなかったことが反省である。また、無処理区の状態も把握しに調査をしたいと考えている。最後に、今までに調査に携わっていただいた芦生研究林技術職員に感謝します。

表1 クマ剥ぎ調査地の概要

防除方法	防除本数	クマ剥ぎ被害本数
タイヤ	85	33
ビニール	84	29
PP	71	8
竹	76	9
分解素材	84	11
標識	76	18
スプリング	84	21
ポリエチレン	80	14